



難民とともに日本社会の未来を築く WELgeeファミリーの一員になりませんか？

マンスリーサポーターを募集しています。

私たちの活動の特徴は、「一方的な支援」ではなく
難民の人生再建のための「中長期的な伴走」を行っていることです。
この「中長期的な伴走」は、難民の方一人ひとりが、日本社会と繋がるための取り組みであると同時に、
日本社会が彼らと関係を築いていくための活動でもあります。
生まれた国や人種、宗教などの境遇にかかわらず、誰もが一人の担い手として、
未来を築くことができる社会を、私たちとともに実現しませんか？

Join us !!
WELgeeファミリーの
ご登録はこちらから



本報告書の内容に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

特定非営利活動法人 WELgee (ウェルジー) 英語表記: Nonprofit Corporation WELgee

有料職業紹介事業許可番号 13-ユ-311372

有料職業紹介事業許可年月日 2019年11月1日 (2022年11月1日更新済)

所在地 〒150-6027
東京都渋谷区恵比寿4丁目20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー27階デジサーチアンドアドバタイジング内「COEBI」

メール info@welgee.jp

SNS @welgee @WELgee_Japan NPO法人WELgee @welgee_japan

■ 難民の定義

難民とは「人種、宗教、国籍、政治的意見または特定の社会集団に属するという理由で、自国にいと迫害を受けるおそれがあるために他国に逃れ、国際的保護を必要とする人々」(出典：1950年UNHCR事務所規程・1951年難民条約・1967年難民議定書)を指します。近年、UNHCRのガイドラインなどによって国際慣習では、紛争・ジェンダー・気候変動での強制移住をせざるを得なくなった人々についても難民として保護する方針が主流になっています。

■ WELgeeの「難民」の考え方

難民が生じる背景や社会情勢が多様化・複雑化する中で、従来の難民の定義にとどまらない多くの人々が、祖国を追われる状態に置かれています。WELgeeは、命の危険があって現在祖国に戻れない状態にある人を活動の対象としており、認定難民・難民認定申請者・後発的難民(帰国困難な状態にある元留学生等)・避難民なども含んでいます。

■ WELgee活動のスタンス

WELgeeは「難民」を保護対象としてのみならず、一人ひとりを志や経験をもった個人として捉えています。政府による難民認定だけをゴールにするのではなく、難民の人生の再建の選択肢を増やす取り組みを行っています。またWELgeeとともに活動をする難民の方々のことを「志を持つ、多国籍な仲間」という意味を込めて「インターナショナルズ」と呼んでいます。

■ 表記について

【難民】命の危険があって現在祖国に戻れない状態にある人、総称。認定難民・難民認定申請者・後発的難民(帰国困難な状態にある元留学生等)・避難民なども含んでいます。

【インターナショナルズ】WELgeeとともに活動をする難民の方々のことです。

【避難民】特定の国から避難をしてきた人々のこと。WELgeeでは、特定の国や地域から逃れてきた人々を指す場合には、「〇〇(国名・地域)避難民」という言葉を使用します。特に、アフガニスタン・ウクライナ出身の難民については「アフガニスタン避難民」「ウクライナ避難民」とします。

【団体名】文章中の団体の表記については、法人表記を原則正式名称にて掲載いたします。

【写真】難民の方のプライバシー保護のために、一部画像を編集しています。

Co-Creative Adventure

WELgee Annual Report 2023



私たちは、日本にやって来た難民たちと
誰もが活躍できる未来を創っています。

WELgee's goal is to make a society where refugee are also welcomed. WELgee is the combination of "welcome" and "refugee".

「ことば」を紡ぐ

難民という言葉の裏には、意志を持った人間がいる

故郷を逃れることは、これまで築いてきた人間関係、キャリア、財産、社会的地位、家族や親戚、友人、恋人と過ごす日常を全て捨てて、一から人生をやり直すこと。私たちは難民として逃れた日本で、彼らが再び未来を築くことができる「自らの境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会」を目指して活動をしています。本コーナーではVさんが様々な困難を乗り越え、未来を切り拓く姿を紹介します。



命の危機から生き延びるため、母国カメルーンを離れ日本に。

1992年、カメルーン共和国の農家で生まれたVさん。友達と遊ぶのが大好きで、勉強は嫌い。だけど親は厳しく学校に行くように言う。子ども時代はそんな毎日を過ごしていた。当時は洋服を作るのが好きでデザイナーになりたかったが、親の助言で大学進学を決めた。

大学では経済学と英語を専攻した。その頃から「将来なにかカメルーンで有益なビジネスをやりたい」と思うようになった。

パートナーとの出会いは高校の時。当時パートナーはVさんの高校と同じ町の中学校に通っていた。大学に入り、都市に引っ越してから連絡をとり続け、交際に発展した。カメルーンにおいても遠距離恋愛だった。11年間交際しているが、実際に会えた日は合計1カ月にも満たない。来日後も毎日連絡をとり続けている。

卒業後には、経済学の講師、銀行、物流関係など、仕事を転々としながら生計を立てていた。そんな時に激化したのがカメルーンにおける内戦だ。

カメルーンは、第一次世界大戦後、イギリス領とフランス領に分割された。1960年フランス領カメルーンが「カメルーン共和国」として独立を果たし、1961年にイギリス領の一部が旧フランス領と連邦制をとることが決定した。しかし、その後も事実は英語圏と仏語圏に分裂しており、その間には政治的対立関係があった。フランスに統治されていた仏語圏カメルーンが、国の人口の8割を占め、残りの2割の英語圏のカメルーンは、少数派として、数々の政治的排除を受けてきた。

そんな中、2016年に小さなデモが発生した。フランス語が話せなければ公務員になれない、などの政府が発表した政策に対して英語圏の弁護士たちが抗議デモを行い、それに賛同した教師たちもストライキを起こした。この抗議デモ自体は平和的なものであったが、政府は英語圏の活動家を過激派と称し、テロ容疑をかけた上に、デモに対して過剰な制裁を加え、デモの実行者たちへの暴力行為とともに抗議活動を終わらせようとした。そのことを皮切りに政府対英語圏の暴動は、国内で600人以上の死者を出す紛争にまで発展した。

爆弾で家が燃えている。人々が理由なく逮捕され、殺されている。Vさんの友人も、いつもの通り道を歩いていたところで射殺された。Vさんも政治的に排除をうけてきた英語圏の出身であった。「なにもしていない友人が殺された。次は自分の番かもしれない…」命の危機を感じたVさんは国外脱出を決意した。

親戚のついでで用意できたのが日本行きのビザであった。「日本か。社会の授業で名前だけ聞いたけど、なにも知らないな…」そんな中、2018年、来日することになった。

異国「日本」での戸惑い・苦難からWELgeeに出会うまで

日本に着いて、第一印象で「良い国」だと思った。銃がない。戦いがない。平和な国にたどり着くことができた。しかし、すぐに問題に気が付いた。それは英語が話せる人が少ないこと。たとえ問題に直面しても、日本語で自身の状況をどう表現しているかわからず助けを求められない。文化も大きく異なる。来日から日が浅い時期には、あまりの孤立感に気が滅入り、カメルーンに帰って死んだほうがましだと思った日もあった。

やがて、同郷の友人と出会い、彼らの家に滞在するようになった。一つの部屋に7人暮らし。寝るスペースもなかった。皆、日中は仕事に行くが、自分はまだ就労許可もない。することがなく、一日中椅子に座り、ぼうっとする生活であった。なにもしない生活。ひたすら時間を持て余す日々が2カ月続いた。ストレスが溜まる一方で、日本に着いてから一番大変な時期であった。

来日2カ月後、あと1カ月でビザが切れるというタイミングで、支援団体の助言を頼りに難民認定申請を行った。その後、その支援団体から紹介された日本語教室に通う中で出会ったのが、現在のWELgee代表・渡部、事業部全体統括・山本であった。まだWELgeeがキャリアプログラムをはじめ前、事業を模索しながら、難民の若者たちから日々ひたすら話を聞き、様々な活動を展開していた時期である。WELgeeや他の支援団体に会う中で「日本で自分がなにをすべきか、なにができるか」が見えてきた。

当時のWELgeeは、定期的にWELgeeサロン(※1)を開催していた。Vさんは日本で友人を作ろうとWELgeeサロンにも積極的に参加した。仙台の中学校に行き、日本で難民が直面する課題について学生たちに話したこともある。

「カメルーンでリサイクルのビジネスがしたい」夢に向かって走る日々。

来日2年の頃から3年間は、建設関係の現場で働いた。いわゆる「サバイバルジョブ(※2)」である。外国人は一人のみ。英語が話せる人も誰もいない。給与は想像よりよく、家族に仕送りすることもできていたが、労働環境はよくなかった。「5年間働いた中で一度たりとも『ありがとう』と言われなかった。いじめがあった。」そんな中でも、文句を言わずに懸命に勤務することを心がけた。

日本はG7諸国の中でも極めて難民認定率が低い。そうなると、ここ日本で安定して暮らすには難民認定のみに頼らず、なにか他のより安定した在留資格を得ることが命綱になる、とVさんは考えていた。一方、建築現場の仕事で在留資格の変更が出来る可能性は極めて低かった。すでに難民認定申請をしてから5年が経過していた。自分では、母国で迫害のおそれがあったと確信していた。ただ、いつ入管に呼ばれ、不認定の言い渡しと同時に「滞在はもう終わりだ」と告げられるかわからない。「そろそろ日本での将来を本格的に考えないと…」そう考え、VさんはWELgeeのキャリアプログラムに参加した。

最初に参加したのはメンターシッププログラム(※3)である。「メンターと、毎日10社に応募するという目標を立てました。実際、日々の現場仕事でとても疲れている中、パソコンに向かうのは大変でした。会社から送られてくるのは大量の“お祈りメール”。時にはもうやめたいと思いましたが、メンターやWELgeeに“You can do it!”と励まされ、毎日10社に応募することができました。」多くの応募をしては断られる日々が続く、難民認定申請者としての法的・経済的・社会的不安定さ、日本で就活することの厳しさを、肌で感じたVさん。それでもめげずに、100社以上に応募し、メンターとも粘り強く自身の履歴書や志望理由書を磨いていった。そんなVさんにとってWELgeeは人生を諦めるな、と励ましてくれる父のような存在でもあったという。

Vさんには「いつか母国・カメルーンでリサイクル事業を行いたい」という目標がある。日本で皆が当たり前ゴミの分別を行い、適切に処理が実施されているのを目の当たりにし、これはカメルーンでのビジネスチャンスになりうると感じたことがきっかけとなった。カメルーンではリサイクルは一般的ではない。ごみが溜まったら自分で燃やす人もいれば、道路にそのまま捨てる人もいる。あるいは穴を掘って、中に入れて放置する。そのような手段でごみが廃棄されることが多く、そこから衛生環境が悪くなり、病気の発生源となっているのを見てきた。現在は、中国の大企業が大都市でリサイクルを行おうとしているが、他の都市ではまだまだ多くの廃棄物が不適切に処理されている。

Vさんの紹介

カメルーン共和国出身。明るく人懐っこい性格の持ち主。WELgeeによるキャリア伴走を経て、現在、富山の地場企業・荒木商会で、リサイクルに携わっている。

2018年2月	来日
2018年7月	WELgeeのメンバーと出会う
2020年10月	建設会社でアルバイト
2023年6月	荒木商会にて勤務開始
2023年12月	「技術・人文知識・国際業務」へ在留資格切り替え

3カ月のメンターシッププログラムが終了した頃、WELgeeで紹介されたのが荒木商会であった。荒木商会は「モノを大切に、人を大切に。調和と成長を通したゴミのない社会の実現」を掲げ、リサイクル事業に取り組む富山県の地場企業だ。当社では2030年のビジョンとして海外進出を掲げ、特にアフリカ市場も検討している。カメルーンでリサイクルの会社を立ち上げたい、というVさんの中から生まれてきた夢、そして、社会的で明るいVさんのキャラクターに、社長の荒木さんも、「ぜひ仲間になりたい」と強く感じたそう。なによりもVさんのリサイクル事業への熱い思いと夢への共感が採用につながった。

荒木商会の朝は早い。会社から1時間程度離れた金沢で仕事があるときには、朝7:30には仕事場に到着していないとならない。早く着けば余裕をもって準備できるし、1分でも遅ければそれは遅刻。Vさんはそんな時間厳守の日本の文化を尊重するよう努力し、日々懸命に働いている。現在は、リサイクルの現場で活躍中だ。ペットボトルをひとつとっても、蓋に、カバーに、細かく分別を実施する日本のリサイクルルールは複雑で覚えるのにも苦戦したそう。富山弁でコミュニケーションが交わされる毎日にも苦労しているが、Vさんの人柄や能力は秀でており、現場で引っ張りだこだ。将来的には、営業としての活躍が期待されている。日本語のレベルの向上のため、2024年4月末からWELgeeのプログラムでも日本語教育をうけている。

「荒木商会にはいつからHappy Happyです！」と勉強中の日本語を使いながら、笑顔で語ってくれた。荒木商会で採用されたことで、会社が雇用のスポンサーとなり、在留資格を就労を基礎とした「技術・人文知識・国際業務」に切り替えることができた。これにより、難民認定の結果によらずに安定した在留資格を保つことができる。また在留資格の切り替えにより、日本への家族の呼び寄せができるようになった。2023年4月にはパートナーが来日。11年の遠距離での関係を経て、これからやっとならぬ暮らし日々がはじまる。

※1. WELgeeサロン
WELgeeが2016～2020年度に開催していた交流イベント。異なる価値観をもつ人々が双方向的な会話を行うことを大切に、「難民」という言葉の先のユニークな個性と出会うことを目的に実施、計30回以上開催され、1000名以上が参加した。

※2 サバイバルジョブ
明日を生き延びるための、派遣や短期、非正規での仕事

※3 メンターシッププログラム
社会人メンターとともに自身の強み、特性、やりたい仕事などの内省と言語化、それらを活かせる業態や職種の調査を3カ月間かけて行うプログラム。詳しくはp5。

WELgeeの活動を応援してくださっているみなさんへ

8年目の活動報告書となりました。悲惨さが増していくパレスチナ・イスラエルでの戦闘。政治的混乱や紛争が続くミャンマー、ウクライナ、アフガニスタンなどで生きる人々の平和からの程遠さ。安全なところに移動することさえも叶わない人々も大勢います。言葉を絶する惨状に、報道を直視できない日があるのは私だけではないはず。機能不全になった国際社会を見せつけられているように感じることも、無力感を感じることもありました。ただ、WELgeeの目の前には、そんな逆境の中でも、最後まで諦めずに故郷を一旦出るというを選び、その結果、日本に命を繋ぐことになった若者たちがいます。決して簡単な決断でも、行動でもない片道切符。彼らには、叶えようとしてきた夢や、未来に踏み出す力があります。コロナ禍の入国制限も解除され、アフリカや中東出身者からの相談も増えています。素晴らしい企業と出会い、難民認定を待つ不安定な在留資格から、仕事に紐づく在留資格への変更を果たしたNさんは、念願の家族呼び寄せを叶えました。産業界では国際的にも「ビジネスと人権」という概念に注目が集まり、国内では入管法改正をめぐる大きな議論もありました。時にはダイナミックに、走りながら考える、失敗したらすぐ改善し、次に進む。一方で、法的に脆弱性を持つ存在に関わるからこそ、ものすごく丁寧に歩を進めるべきときもある。はたから見たら素晴らしいチャンスであるものの、それらを受け止めるには組織基盤がまだ安定しきっていない悔しい場面だってありました。多くの矛盾も抱えながらの「まだまだこれから!」という試行錯誤の歩みですが、何か一緒にできることがありそうか、想像しつつお読みいただけたら幸いです。



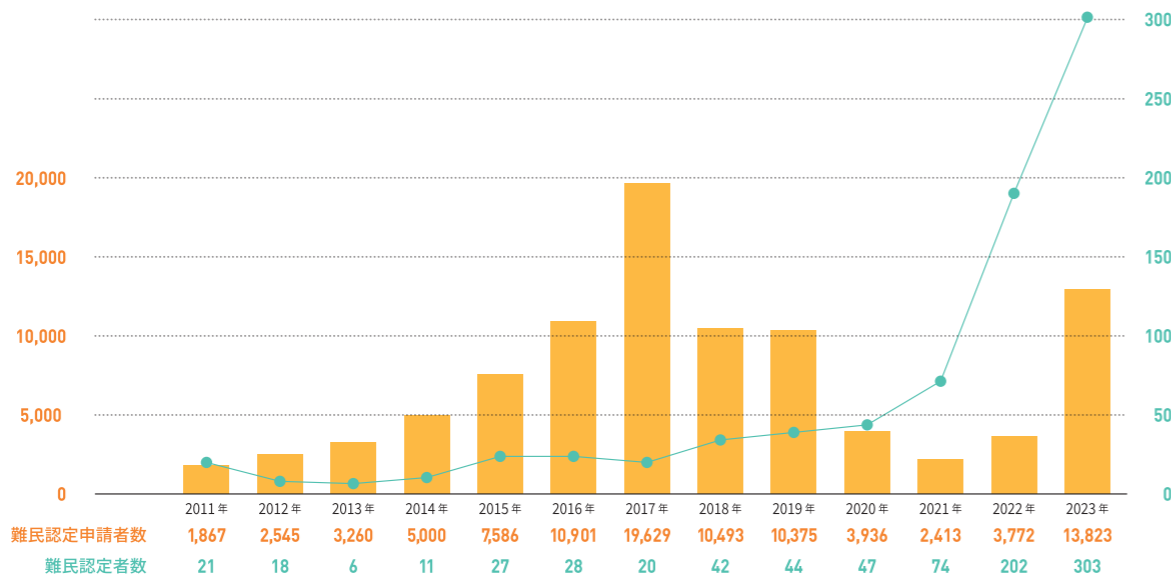
WELgee代表理事
渡部カンコロンゴ 清花

WELgee とは？

- Vision** 自らの境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会
- Mission** 志を発掘し繋がりを広げ、未来をデザインできる仕掛けをつくる
- Approach** WELgeeは紛争・迫害などから逃れ、希望をもって日本にやってきた難民たちが、経験や専門性を活かして希望を持って日本で人生を再建するため、「就労・キャリア」を手段にプログラムを展開しています。
- Issue** 2023年5月時点で、紛争や迫害により故郷を追われた人は世界で1億1,000万人を超えました。私たちの暮らす日本にも、安全や平和を求め逃れてきた難民と呼ばれる方々が暮らしています。現在、日本政府から「難民」として認定されるための難民認定手続きを行っている「難民認定申請者」は、4940人※ほどいます。またアフガニスタンにおけるタリバン復権、ロシア軍によるウクライナ侵攻等、不安定な世界情勢の中で「留学」「特定活動(1年)」「補完的保護」等、様々な在留資格にて日本に滞在することになった人も増加しています。

※法務省「在留外国人統計」(調査年月2023年6月/最終閲覧2024年4月9日)

日本の難民認定申請数と認定数 (難民認定申請者と認定者の推移/出入国在留管理庁の統計より作成)



WELgeeにかかわるメンバーを紹介します

職員・理事 代表理事 ファウンダー 渡部カンコロンゴ 清花	職員・理事 事業部全体統括 山本 菜奈	職員・理事 リソース部門統括 渡辺 早希
職員 育成事業部 プロジェクトコーディネーター 成田 茉央	職員 エンゲージメント推進部門 統括 林 将平	職員 PR・ファンドレイジング スタッフ 加藤 冬華
キャリアコーディネーター 就労伴走事業 坂下 裕基	キャリアコーディネーター 就労伴走事業 武居 裕介	キャリアコーディネーター 就労伴走事業 金城 遥
キャリアコーディネーター 就労伴走事業 圓山 佐登子	キャリアコーディネーター 就労伴走事業 寺阪 ゆう子	メンバー WELgee Talents マーケティングチームリーダー 星加 円
メンバー ファンドレイジング コンサルタント 水溜 智士	メンバー 事務局サポート 奥江 英樹	メンバー 法人連携チーム 渡邊 雄
メンバー デザイナー 平船 瑞生	外部理事 株式会社 エス・エム・エス 安齋 耀太	監事 株式会社グロービス 東樹 敏明
監事 株式会社グロービス 井上 智映子	顧問行政書士 行政書士明るい総合法律事務所 長岡 由剛	顧問税理士 長田和弘税理士事務所 長田 和弘
リーガルアドバイザー 藤の花法律事務所 BLP-Network 荒谷 淑恵	プロボノ 就労伴走事業 アドバイザー 桐ヶ谷 昌康	プロボノ 行政書士 小野 さやか

上記メンバーの他、86名のプロボノ・4名のインターンがTeam WELgeeとして、日々インターナショナルズのキャリア再建に尽力しています。(2024年5月時点)

Recruit プロボノ募集

社会人として培ったスキルや経験を活かしたボランティアとしてWELgeeで活躍しませんか？
様々な職務経験を積み重ねてきたからこそその視点やスキルが、インターナショナルズへの伴走、事業強化や組織開発の力になります。WELgeeで多国籍な難民、多様なメンバー、外部のステークホルダーと向きあい、ご自身の視野を広げませんか？

Check!

Recruit 有給スタッフ募集

各種ポジションにて、有給スタッフも随時募集中です。フルタイム、パートタイム、業務委託等。ご自身のご都合にあわせてフルフレックス・フルリモートで働けるポジションもあります。

Check!

私たちとともに「自らの境遇にかかわらずともに未来を築ける社会」を目指しませんか？

■ 育成事業

育成事業は、インターナショナルズの個性を輝かせ、彼らのポテンシャルを最大限に引き出すことを目指しています。在留資格やニーズの多様化に伴い、より一人ひとりと密に向き合った一年でした。

今年度は新たに「Career Training Program」や日本語力向上のための「日本語研修」を実施。さらには、メンターシッププログラムの一貫として「模擬面接」を新設し、プログラムを強化しました。

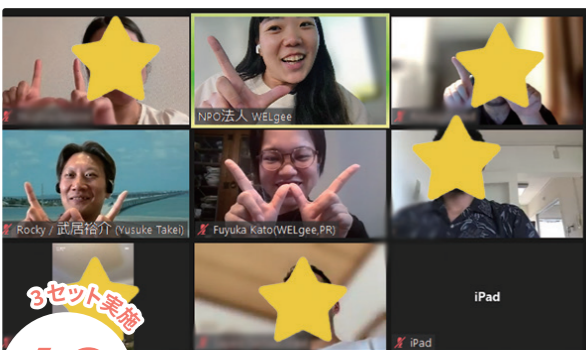
日本語研修

8名が10カ月間のプログラムを受講!

企業とインターナショナルズを繋げていくときの、一番のネックは日本語です。本年度は、日本語能力検定 N3の1年以内の取得を目標に日本語教育の機会提供にあわせて、ボランティアによる学習サポートを実施しました。

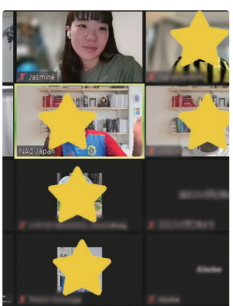
キャリアのファーストステップ!

Career Training Program



43名が参加!

来日したインターナショナルズにとって、日本特有の就職活動文化(人柄採用、転職エージェントの利用など)への適応は難しい課題です。日本で暮らして働いてきた人からすると当たり前の文化でも、まったく違う文化や仕事観の中から来た方々からすると、時間をかけて理解をする必要があります。本年度より、そのような日本での就職のための基礎知識をインプットするプログラムを開始しました。



Sempai Session

企業で活躍するインターナショナルズをゲストスピーカー(Sempai)として招き、後輩に対して、日本での生活や就労の経験を共有します。同じ「難民」という境遇をもつ参加者が互いに学ぶ機会です。本年度は5回開催しました。

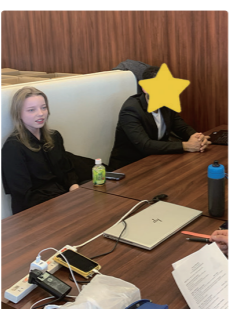
社会人プロボノとのペア!

メンターシップ



29ペアに伴走!

インターナショナルズ(メンティ)とプロボノ(メンター)がペアとなり、3カ月間の実践的な就職活動を行います。自己分析、履歴書作成、面接練習を通じて、就職文化の違いを身をもって学んだ後、就労伴走事業部のステップへと進みます。プログラム後も、良きパートナーや相談相手として関係を続けるペアも多くいます。本年度は29ペアが就職活動を行いました。



模擬面接

メンターシッププログラム中、キャリアコーディネーターが面接官となり、模擬面接を実施。インターナショナルズは自作の履歴書を基に質問に答え、貴重なフィードバックを受けて、メンターと共にさらに自己理解を深めます。

ブラザー工業様にてインターンを実施!

名古屋大学との就労伴走協定の 일환で、ブラザー工業様にてインターンシップが実現しました。修士課程まで法律・政治等を学び、法務経験があるZさんが、同社の法務・環境・総務部 法務グループにて企業法務の仕事内容について学びました。社員の皆様がいい刺激になったという声も。またこれをきっかけに、24年1月よりZさんは同グループで週2日勤務しています。

■ 就労伴走事業

就労伴走事業では、インターナショナルズを、企業の事業や組織にポジティブな変化をもたらす「人材」として企業様に提案し、新規採用プロジェクトづくり、人材とポジションのコーディネート、お試し雇用、定着まで一貫してサポートする「WELgee Talents」の運営を行っています。2023年度は25名のインターナショナルズを33回企業様に推薦し、6件のお試し雇用やパートタイム雇用、6件の正社員雇用が実現しました。また4名の在留資格が「技術・人文知識・国際業務」に変更され、1名が配偶者を日本へ呼び寄せることに成功しました。

お試し雇用や
パートタイム雇用 **6** 件

正社員雇用 **6** 件

在留資格変更 **4** 名



Case-1 アパレルブランド・CFCL 様×ウクライナ避難民 Mさん

母国の美術専門学校を卒業し、フリーランスでクリエイティブの仕事をしていたウクライナ避難民Mさんが、グローバルに展開するニットウェアブランド・CFCL様に入社しました。Mさんは自身のイラストスキルを活かせる仕事を探しており、WELgeeの紹介から、2023年5月よりトライアル雇用を開始。CFCL様がチーム体制を整え、Mさんも吸収の早さや勤勉さを活かしながら愚直に努力を重ねて成長を遂げたことから、正社員としての採用が決定しました。WELgee初のアパレルブランドでの本採用です。



Comment
Yuko

自分が二十歳だった頃果たしてこんなにしっかりしていただろうか.....初めてMさんに会った時にとても驚きました。逆境は人を早く成長させるのかもしれない。Mさんは今ではマーケティングチームの立派な戦力の一人となっていると聞き嬉しく思っています。

Case-2 地場製造業・エムエス製作所様×アフガニスタン避難民 Zさん

WELgeeは名古屋大学と就労伴走協定を締結しており、名古屋大学博士過程に在籍するアフガニスタン出身のZさんが、愛知県の金型メーカーであるエムエス製作所様にて、研究と両立する形で会計・法務のアルバイトを行っています。母国では都市開発の機関で法務やガバナンスに関わる仕事をしてきたZさん。元々、関東地域での人材伴走や採用のコーディネーションがほとんどでしたが、少しずつ就労の事例が全国各地で生まれはじめています。



Comment
Chill

持ち前の笑顔とコミュニケーション能力で初対面から社長さんをはじめ、社員の方を魅了していたZさん。彼の活躍が彼自身、そして彼に続く後輩たちの道を切り拓いてゆき、さらにエムエス製作所様にとってもさらなる発展に繋がる姿を見られることを楽しみにしています。

Case-3 家族統合初事例! Nさん夫婦が日本での生活を開始しました。

コロナ禍がはじまる直前の2019年10月に新婚のパートナーを残して単身で来日し、難民認定申請を行ったNさん。彼にとっての悲願は、「人生で一番の理解者で大親友」のパートナーと再び日本で暮らすこと。WELgeeのプログラムを通じてNさんは2022年2月にシティコンピュータ様と出会い、その後採用が決定。2023年4月には企業が雇用のスポンサーとなり、難民認定申請中の「特定活動」という在留資格から就労を基礎にした「技術・人文知識・国際業務」に切り替えを行いました。



そして企業のサポートのもと、2024年3月についてパートナーの来日が実現しました。「最愛のパートナーを日本の家族に紹介したい」ということでWELgeeメンバーとNさん夫婦で、歓迎会も開催。就労を通じて在留資格を切り替えることを通じて、国境を超えて離れ離れになった家族の再統合が可能になることを実証できました。

■ 難民人材採用エコシステム - 企業との取り組み -

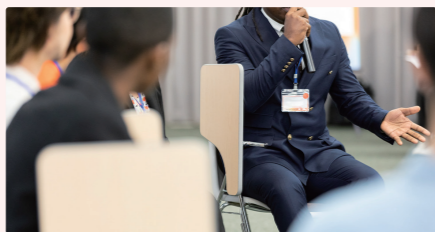
WELgeeでは日本社会の様々なステークホルダーとの関係性を活かし、難民の人たちが直面する課題のクリエイティブな解決策を模索しています。

今年は、産業界との連携が飛躍的に高まった年になりました。13社の協賛・100名規模の難民xビジネスリーダーの交流機会である「Refugee Career Demo-Day 2023」の開催、経済同友会・インパクトスタートアップ協会・新公益連盟が連携する共助資本主義イニシアチブへの参加など、産業界全体で難民の活躍と雇用を促進する動きが加速し始めた1年でした。

「難民人材採用」に広がる関係

Refugee Career Demo-Day 2023

協賛13社、56名のビジネスリーダーと、インターナショナルズ20名が交流



日本に逃れた難民たちが、日本企業のビジネスリーダーとの交流を通して、今後の日本でのキャリアを描き、就職活動に踏み出すきっかけとなる「Refugee Career Demo-Day 2023」を開催しました。セブン・イレブン・ジャパン様や商船三井様など、各業界を牽引する企業13社からの協賛、新経済連盟の後援の元、多様な業界・業種の40社、56名のビジネスリーダーと、インターナショナルズ20名が交流する機会になりました。イベントでは難民人材として活躍する先輩や採用企業の声を聞くパネルディスカッションや、各グループに分かれてのディスカッションを実施。

日本企業・難民当事者双方の視点から、難民人材採用を通じた日本企業の組織の変化について、白熱した議論が行われました。企業参加者からは、「こんなダイバーシティ体験はなかなかない。実際に日本で働いているインターナショナルズのリアルな葛藤や喜びの声を聞くことができた」という声が、インターナショナルズからは「日本企業で働く経験を知ることができ、私の経験を伝えることができました(20代・アフガニスタン出身・女性)」という声が出ました。企業・インターナショナルズ双方にとって共に働く未来を想像できる機会となりました。

「難民」のイメージに変革を

WELgee Talents リブランディング

「世界の難民と、世界へ挑む。」難民人材紹介コーディネーションサービスを全面リブランディング!



難民人材の価値やサービスの提供価値、日本企業における難民の採用の意義を言語化し、難民人材採用の事例を増やすために、難民人材採用コーディネーションのリブランディングを行いました。精鋭クリエイターとともに、6か月間かけてサービス名やタグライン、キービジュアルを撮影しました。彼らの多くが母国で命の危険に直面しても人生を諦めず、未知の国に飛び込んで人生を再建しようという勇気と情熱があり、一人ひとりが独自の経験と志を持っている「Talent (タレント)」であるという強い思いから、「WELgee Talents」という新しいサービス名になり

ました。また難民人材とともに海外事業展開や、グローバルなチームづくりに挑戦する企業様が増えている中で、企業様の世界に向けた挑戦と、難民人材の日本におけるキャリアへの挑戦を重ね合わせ、企業様・難民人材双方に価値のあるコーディネーションを行うという決意を込めて「世界の難民と、世界へ挑む。」というタグラインを策定しました。

WELgeeの思いがこもったサービスサイトをぜひご覧ください。(URL: <https://welgee-talents.jp/>)



産業界との協働へ新たなステップ

難民人材活躍プラットフォーム

「共助資本主義」の実現を目指し、経済界と協働

日本経済が活力を取り戻し持続的成長を実現するモデルとして、経済同友会から「共助資本主義」が提唱され、その実現を目指して、インパクトスタートアップ協会、新公益連盟も関わる形で、ソーシャルセクターとビジネスセクターの協働を通し、様々な領域における社会課題の解決を目指すプロジェクトが開始しました。まだ立ち上がり期ではありますが、「難民人材活躍プラットフォーム」もその1つです。

採用にとどまらない難民活躍を後押しする企業のアクションが日本でも加速・拡大することを目指し、WELgeeがコーディネーションする形で立ち上げられました。この取り組みは、国連総会で採択された「難民に関するグローバル・コンパクト」の理念に基づき、第2回グローバル難民フォーラム(2023年12月開催)に向けての「宣言(Pledge)」としても登録されています。

異業種企業による難民人材活躍に向けたクリエイティブな探究と実践を盛り上げていく契機にしていきます。

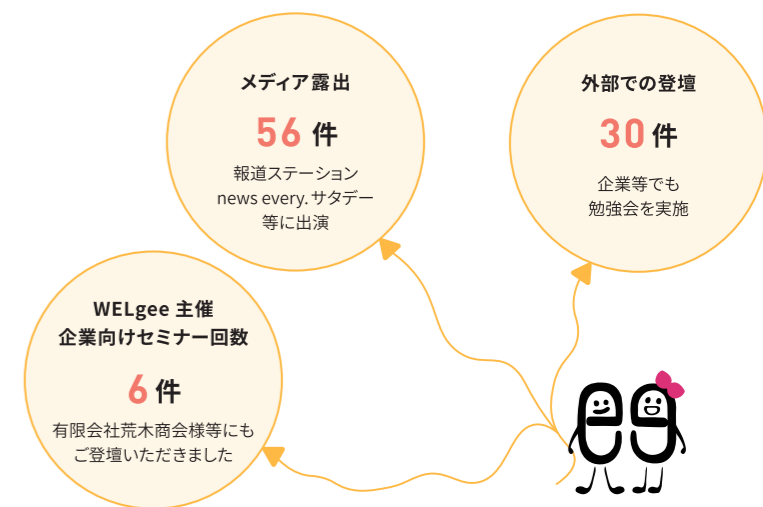


経済界でDE&Iの取り組みとして評価されるように

インパクトハイヤリング

デロイト トーマツ発行「インパクト雇用で実現する人的資本経営 ~企業価値向上に不可欠な人的投資~」に掲載

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社様が発行する「インパクト雇用で実現する人的資本経営~企業価値向上に不可欠な人的投資~」というレポートにおいて、日本におけるインパクトハイヤリング促進事例として、WELgeeの難民人材の就労・定着における取り組みを紹介いただきました。インパクトハイヤリングとは、「潜在的能力はあるが、一般的な採用方法では雇用機会が限定的だった層」を雇用対象とすることで、雇用によるイノベーションや社会的貢献を目指す取り組みのことです。上場企業に対する人的資本の情報開示請求の義務化、人口縮小に伴う労働人口の減少といった社会の変化の中で、労働力確保・高付加価値人材の発見および育成に注力するための手段として注目されています。WELgeeが携わった事例においては、2023年度末までに累計38名の難民人材が活躍し、難民人材の受け入れ企業や組織の変化が様々な形で生まれてきました。2025年度までに100名の難民人材採用を目指し、企業への発信を続け、「難民人材採用はDE&Iや人権の観点で重要な経営アジェンダである」ことを認知してもらうことを目指しています。



企業インタビュー 「キャリアを通じて人生を再建する」大切なパートナーの声

国籍や背景にとらわれず、よき仲間と働く — Vさんの採用・活躍事例



荒木商会様

金属、樹脂スクラップ売買業、産業廃棄物収集及び処分業、 遺品整理等片付け事業、解体事業を展開。「ゴミのない社会の実現」「誰もが安心して働ける社会の実現」をミッションに、新たな価値を提供できる企業づくりと、問題解決ができるサービス提案に取り組んでいます。

■ 難民人材の採用を考えたきっかけはなんですか？

荒木さん：会社の方針として、障がい者や高齢者の方々、働きづらさを感じている人などの受け入れをしていて、ダイバーシティ経営、個々の強みを活かせる会社作りを大切にしています。ウクライナ侵攻をきっかけとして、難民を受け入れる必要があるとも感じていました。言葉はわからなくても、できることはあると考えていました。

■ Vさんと出会ったきっかけは？

荒木さん：リサイクルにすごく興味を持っているアフリカの方がいるということだったので、それがきっかけでWELgeeと話をさせていただきました。ちょうどVさんと会った前年にアフリカを視察しました。向こうの現状を見た時に、リサイクルが必要とされてる国だなと。環境に対してはまだひどい状態で、川にもゴミが溢れて。リサイクルを考える文化はまだないんだというのも見えたので、いつかアフリカで何かできればいいな、とイメージしてました。そこでVさんと話して、意気投合しました。

■ Vさんに初めてお会いした第一印象は？

荒木さん：ものすごく距離感が近い。メリハリがあって、真剣な時はすごく真剣ですし、おちゃらける時はすごくおちゃらけます。話をさせてもらった時に、仕事を一緒にしてるイメージがついたんです。彼、会社に来たら面白いな...と。(社員が初めて彼に会ったときには)彼が来るか来ないか未確定な状態だったのですが、社員皆が「いつ来るの!」と。一瞬で虜になっちゃいました。

■ Vさんの採用の決め手は？

荒木さん：企業理念に「子どもたちが安心して過ごせる未来に貢献」を掲げ、「ゴミのない社会の実現」と「誰もが安心して働ける社会の実現」をミッションにしています。その思いを持って、会社をどうやって成長させていくかっていうことを考えています。その中で一番大事にしたいのが「人間的成長」なんです。

人の痛みが分かる、人の心に配慮ができる、感謝ができる、そういう人材の採用をしていきたいという思いがあります。僕

は彼のバックボーンにある大変さもありながら、それでも笑顔で振る舞ってくれる姿にすごく惹きつけられました。

彼も将来カメルーンでリサイクル事業をしたいという夢があったので、彼を採用して一緒に仕事することで、会社も人も成長できるなっていうことを思って、彼の採用に至りました。

■ Vさんが入社して1年、現在の活躍はいかがですか？

荒木さん：今、現場研修を1年間してくれています。彼は全体を見渡せる力が秀でています。例えば遺品の片付けの仕事で、彼はどれくらいで終わるかを計算できます。1-2年経ってもわからない人もいるのですが、彼はそれを数ヶ月でできた。頭がいいのだなと思ってます。そして仕事が速い。だからといって仕事を雑にやってるわけじゃない。お客さんの思いをくみながら、みんなにうまく指示をして、現場を仕切っています。

塚田さん：私は現場に入ったことがあまりないのですが、以前(現場に入った際に、)Vさんに聞いたらすごくわかりやすく教えてくれました。もしかしたら一番分かりやすかったかもしれません。的を射て、端的に言ってくれました。

■ Vさんが入社したことで、職場に変化はありましたか？

荒木さん：会社の空気感を前向きなものに変えてくれています。仕事してる姿は真剣そのもので、全体に対してものすごく良い影響を与えてます。弊社は「現場に行くと現場を見て覚えよう」というスタンスで、Vさんはそこに順応しています。Vさんと一緒にタイミングで入った20代前半の子がいるんですが、彼もあまり弱音をはかず、今仕事が楽しいと言っていて、もしかしたらVさんがいなかったらまた違ってたかもしれないな、と思います。

■ Vさんの日本語のレベルはいかがですか？

荒木さん：話すことができるので、今の現場研修では、全く問題がない。現場の誰も英語は話ませんが、日本語だけでコミュニケーションを取ってくれています。ただ、読み書きが苦手です。営業を次のステップに考えていますが、そのためには日本語能力検定のN3は必要と本人とも話しています。仕事の後に、とても一生懸命勉強しています。

● WELgeeとの関わり

WELgee職員と共通の知り合いをきっかけに出会う。2023年6月にお試し雇用で、カメルーン出身のVさんを採用。9月に本採用。

● Vさん

カメルーン共和国出身。明るく人懐っこい性格の持ち主。WELgeeによるキャリア伴走を経て、現在荒木商会にて活躍中。母国カメルーンにてリサイクル事業を展開したいという夢を持つ。彼の壮絶なストーリーはp2-3。

■ Vさんの今後のキャリアプラン

荒木さん：富山県で(おそらく)初のカメルーン出身営業マンになってもらいます。日本語のレベルを上げて、次は営業として、成果を作る、お客さんとの関係性を作るということをしてほしいと思っています。彼の誠実さは、きっとお客さんにも理解してもらえるかなと思っています。

富山県の地域性としては、なかなか外国人慣れしていないことが多いです。でも、彼の人間性やコミュニケーションは、そういったギャップをちゃんと超えてくれるんじゃないかなって思っています。今も実際に近所でも人気者です。休みの日に誘われて一緒に海のゴミ拾いをしました。

そして、彼が「カメルーンにてリサイクル事業を展開したい」という夢をちゃんと実現できるようにキャリアを進めたいと思っています。夢を叶えるために、得意なことだけではなく、やらなければならないことを理解して乗り越えなきゃいけない。やるべきことを一通り経験して、彼自身がいろんな場面でのスキルを身につけていく必要があると思っています。会社の存在意義を紐解いていくと、社員の幸せにたどり着きます。なので、夢をちゃんと応援できる会社になりたいと思っています。

■ これから難民人材の採用を検討する企業に対して、コメントをお願いします。

荒木さん：例えば障がい者雇用とかもそうなんですけど、やったことない方はやっぱりハードルが高いって言います。その人に提供できる仕事がないとか、社員が気遣いを回すことができないだろうとか。やってないけれど、想像上で不安があって、勝手にハードルを上げちゃう。「やればいいのに」って僕はいつも思います。

少しでも迷うのであれば、何かそこにプラスのイメージもちょっとはあると思うんですよね。ただ、どうしても人だから、リスクを避けたがって、構えてしまう。だけど実はそんな難しい話じゃない。みんな同じ「人」ですから。

肌が違う、言葉が違う、文化が違うとか、違うところだけをフォーカスすると、不安しか出てこない。知らないっていうのが一番不安になると思うので、まずは「関わる」ということを繰り返してやっていければ、その不安は消えるんじゃないかなと思います。いろんな人が交わると、会社の視野も広がります。経営者自身の考え方とか、社員の考え方も拡張していきます。ぜひ、いろんな人とコミュニケーションを取ってみてください。



日本国内の難民人材の スキルや知識を活かし、 多様な組織を作りませんか？



スタートアップ、中小企業から
大企業まで多様な企業での難民人材が活躍！



専任のキャリアコーディネーターが企業様に伴走し、難民人材の活躍できるポジションの策定、人材の紹介、定着支援まで一気通貫で行います。少数精鋭5名のスタートアップ企業から従業員5,000名以上の上場企業、大手メーカーから国際NGOまで、多種多様な企業規模や業界で、38名の難民人材が活躍しています。(2024年5月現在)

難民人材の採用は、イノベーション創出や社員の意識変革、企業価値の向上に繋がります。WELgeeと一緒に、新しい採用の可能性を切り拓きませんか？



■ 協働事例のご紹介

「協働」を改めて調べてみると、こんな定義を見つけました。<「異種・異質の組織」が「共通の社会的な目的」を果たすために、「それぞれのリソース(資源・特性)」を持ち寄り、「対等の立場」で協力して働くこと>(出典:日本NPOセンター)。企業とWELgee、行政とWELgee、他のNPOとWELgee、それぞれの視点と強みと経験を持ち寄り、初めての関わりに少し戸惑ったり新鮮に感じたり様々な学びを得たりしつつ生まれた「協働」を、いくつかご紹介いたします!「うちこんな協働しませんか?」というひらめきがありましたら、お声がけください。

CASE 01 株式会社公文教育研究会 × WELgee

KUMONの社内で部署を越えた社員勉強会を開催させていただきました。参加した社員様より、インターナショナルズが将来的なフルタイム雇用を獲得できるように、KUMONでの就業機会や日本語に触れられる機会を提供できないかと提案いただきました。そこで、先生になるという夢を持っていたアフガニスタン出身のMさんを紹介しました。Mさんは課題に真摯に取り組み、共に働く仲間にも受け入れられ、活躍の場を広げていきました。このKUMONで働く経験を通じ、出会った児童の姿に刺激をもらい、積極的に日本語を学ぶようになりました。結果、夢であった英語の先生としてのフルタイム勤務の内定を別の企業よりいただくことができました。



CASE 02 アジア福祉教育財団 難民事業本部 (RHQ) × WELgee

アジア福祉教育財団難民事業本部 (RHQ) と難民の就労支援に関する協力覚書を締結しました。

RHQは日本政府の委託を受けて、条約難民(難民認定者)と第三国定住難民を対象に、定住支援プログラムを実施しています。日本でも難民認定者数が少しずつ増加してきたこと、そのうち過半数が学歴や職歴をもつアフガニスタン難民であること、より安定的に家計を支え、これまでのキャリアを活かせる仕事にステップアップしたいというニーズがある等の現状を踏まえ、WELgeeでは希望する方々に対して、これまで培ってきた知見やプログラム、企業ネットワークを活かして伴走していきます。



CASE 03 ボードフェロープログラム World in You × WELgee

「ボードフェロープログラム」は、ビジネスリーダーと非営利組織の経営陣が、社会課題解決事業の経営についての議論・協働を行う6か月間のプログラムです。社会課題解決事業の経営に活かせる思考のフレームワークやNPOのガバナンス・経営体制の在り方等の知識をインプットするのにあわせて、ビジネスリーダー達と月に1回の模擬ボードミーティングで議論する厳しくも充実した6か月でした。

日々、目の前の業務を進めていくなかで後回しになりがち、組織の根幹にかかわる重要な議論を意識的に進めるいい機会となりました。



● 2023 年度の受賞履歴



■ たくさんの方々に支えていただきました

2023年度は、22法人・537名からの継続寄付、32法人・87名の個人からの単発での寄付ならびに協賛を賜りました。皆さまからの継続したご支援により、一人ひとりのインターナショナルズの育成機会や就労機会を提供することができました。心より感謝申し上げます。本ページでは、2023年度にご寄付やご支援を賜った個人・団体を一部となりますが、ご紹介いたします。

法人寄付

thejapantimes

brother

nikko am
Nikko Asset Management

ISEKI 井関産業株式会社



PERSOL

三菱マテリアル



人に地域に未来に“やさしい”
西武信用金庫

一般財団法人 世界聖典普及協会・株式会社イオンテクノセンター・株式会社GEAR・株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント
行政書士明るい総合法務事務所・日本郵船株式会社・Yokohama Christ Church 等

2023年度 世界難民の日 Refugee Career Demo-Day 2023

accenture

kikkoman

MOL 商船三井
Mitsui O.S.K. Lines

伊藤園

OWLS
CONSULTING GROUP

シティコンピュータ株式会社
CITY COMPUTER Co., Ltd.

PR TIMES

LinkedIn

WELgee
ファミリー
537 名
22 社

2023年度は537名、22社のWELgeeファミリーの方々に支えていただきました。「素晴らしい取り組みに心より感服しています。」「少子高齢化が進み、労働力人口が減少する日本にとっては日本に逃れてきた難民の働き口を探すことは非常に重要と考えます。」「末長く伴走できたらと思っています。応援しています。」など、WELgeeファミリーの皆さまからは、ご寄付と共に様々なメッセージをいただいております。WELgeeの活力となっています。

個人からの単発寄付

三木谷 晴子さま、矢幡 ミツギさま など87名の皆さま

WELgeeファミリーになって 「難民の若者たちの未来」を支えませんか?



紛争・差別・迫害などから逃れ日本にやってくる「難民」と呼ばれる人たちがいます。希望をかけて逃れてきた先の日本でも追い込まれ「自分は役に立たない人間だ」と可能性を閉ざしている人たちがいるのが現状です。実は彼らは将来的な故郷の担い手たちです。そんな若者たちの直面する壁を崩し、未来に投資するマンスリーサポーターになりませんか?

1日30円~



2025年までに目指すアウトカム

難民

社会的・経済的・法的な安定と活躍の事例が100生まれている

2024年5月末時点で、専門性や経験を活かした職場で働き始めた難民の方々の人数は38人です。職種・業種・企業規模などは様々で、多様な活躍の形があることが検証されてきました。アフガニスタンの政治情勢の悪化、ウクライナからの避難民、水際対策の終焉によって国境が開いたことでやっと移動ができ安全を求めて移動し始められた人々も含め、現在WELgeeへの登録者が増えています。(2024年5月時点で467人)しかし、異国である日本でキャリアの第一歩を踏み出すには時間がかかります。プログラムの強化や、メニューの増加を持って、プログラムを必要とするより多くの人々がマッチングに至り、社会的な活躍、経済的な自立、そして法的な安定性により未来に踏み出していける状態を作りたいと考えています。

企業

日本での難民活躍事例が100件生まれている

日本の中で、企業が難民の背景を持つ人材を採用し、難民人材が企業で活躍する事例が100件生まれてくれば、企業間での知見やケースの共有が可能になってきます。「難民の背景を持つ人」を採用することが、特別な取り組みではなくなくなっていくことを目指して、まずは100件の難民人材活躍を実現させます。

企業の集合体

難民採用・難民人材活躍を目指す企業が繋がり、個々の企業の挑戦を後押ししている

企業における難民人材の活躍は、その同僚たち、チームにも新しい風を吹かせることにつながります。新規事業開発や、海外へのビジネス展開などの場面で難民人材の存在を活かせる企業も増えてきています。しかし、「難民」を取り巻く固定観念やイメージは日本ではまだネガティブなものも多く、企業の中の1人が挑戦しようと思ってもまだまだ「政治的に問題ないのか?」「前例はあるのか?」という声があがることもあり、乗り越えるべき課題も多いです。そこで、企業の集合体(経済団体)としてプラットフォームを作り、難民人材採用の機運を高め、仲間を増やします。海外の好事例にもある"面でのアプローチ"に取り組んでいきます。

政府 / 政治

日本の難民政策に関して、議員/官僚と市民社会の建設的な対話の場が生まれている

入管法改正をめぐる議論においても、政府(入管)と市民団体(弁護士やNPOなど)の間の建設的な意見交換や議論から、少しでも良い制度に向かえたとは言えない状況がありました。政府/入管の「難民申請の濫用を防ぎたい」「長期収容者の解消をしたい」という意向と、市民団体/弁護士などの「日本は難民認定率が低い」「保護すべき人を保護できていない」という見解が当然ぶつかる中での対立構造になり、建設的な対話ができなかったことは否めません。団体としての力不足も感じました。法案が成立する前後のみならず、継続的な意見交換の場を、他アクターと共に作っていきたいと考えています。

短期事業計画 (2023~2025年)

上記アウトカムの達成、ビジョンの実現、日々の実践への指針として、WELgeeは以下の6点を短期計画の柱に据えています。

- 1. 育成事業** 難民の背景を持ちキャリアを志向する人々が日本企業への就職を目指して準備を整える
- 2. 就労伴走事業** 難民人材と日本企業の人材採用コーディネーションを通じた、難民の社会的・法的・経済的な包摂とエンパワメントの新たな選択肢の確立
- 3. PR部** 企業の採用意思決定者や政界の意思決定者、企業の人事担当者が「難民活躍が社会・経済・政治的にも重要である」と認知している状態を作る
- 4. 政策提言** 難民の社会統合/活躍の文脈を応援してくれる議員との関係性を構築する
- 5. 産業界への働きかけ** 経済団体と共に難民人材採用企業の挑戦を後押しするプラットフォームを作る
- 6. 組織基盤** WELgeeの事業拡大に見合う人身体制の確保と、助成金のみならず、寄付金や事業収益といった多様な資金調達方法の強化と安定化を目指す

2023年度 会計報告

単位：円

		22年度	23年度
経常収益	受取会費	7,039,397	9,151,916
	受取寄附金	23,608,827	21,035,546
	受取助成金等	5,414,000	147,900
	事業収益	12,420,738	20,846,050
	その他収益	327,198	2,033,752
経常収益 合計		48,810,160	53,215,164
経常費用	事業費	14,500,321	23,410,781
	人件費	1,990,860	6,626,064
	業務委託費	5,902,375	5,687,699
	その他	22,393,556	35,724,544
	事業費計	3,096,261	4,961,442
	管理費	1,023,137	5,858,600
人件費	964,106	1,920,039	
業務委託費	5,083,504	12,740,081	
その他			
管理費計			
経常費用 合計		27,477,060	48,464,625
当期経常増減額		21,333,100	4,750,539
経常外収益計		0	0
経常外費用計		0	1,666,487
税引前当期経常増減額		21,333,100	3,084,052
法人税、住民税及び事業税		70,000	70,000
当期正味財産増減額		21,263,100	3,014,052
前期繰越正味財産額		25,259,917	46,523,017
次期繰越正味財産額		46,523,017	49,537,069

537名、22社からのWELgeeファミリー（継続寄付）を含みます。（詳しくはp12!）

事業拡大に伴い、就労伴走を担うキャリアコーディネーター 3名、育成事業プロジェクトコーディネータ1名、PR担当フルタイムスタッフ1名を新たに採用しました。

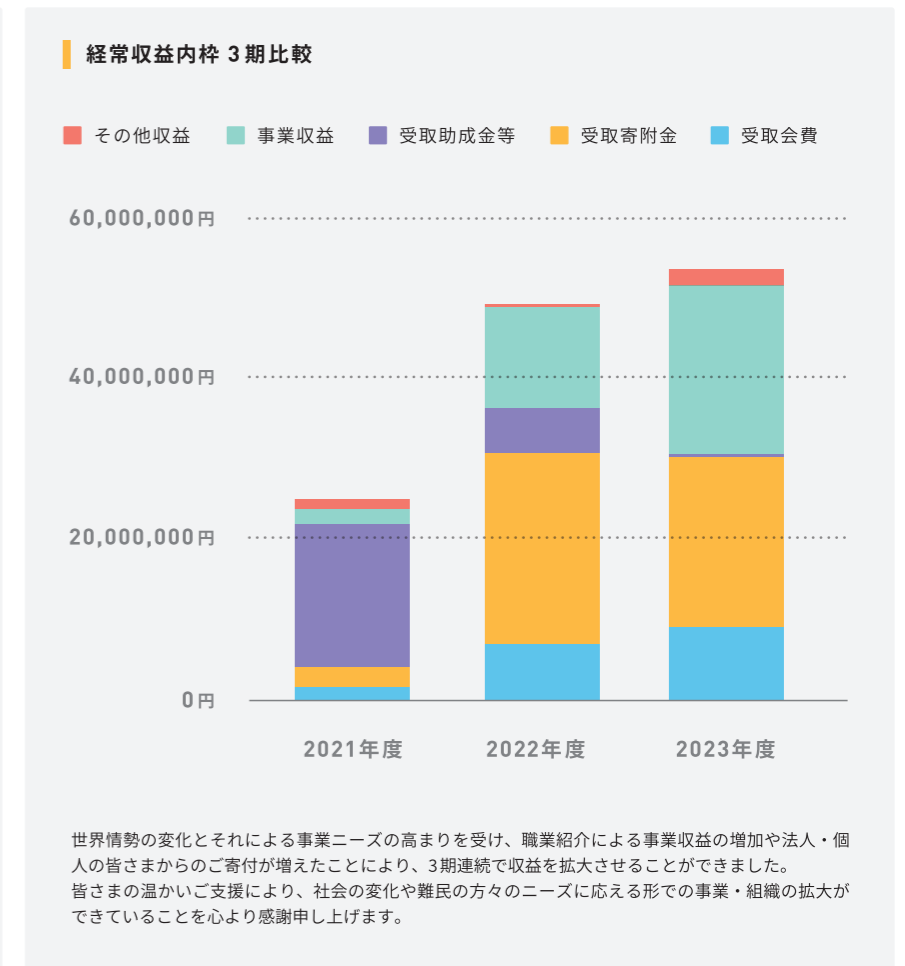
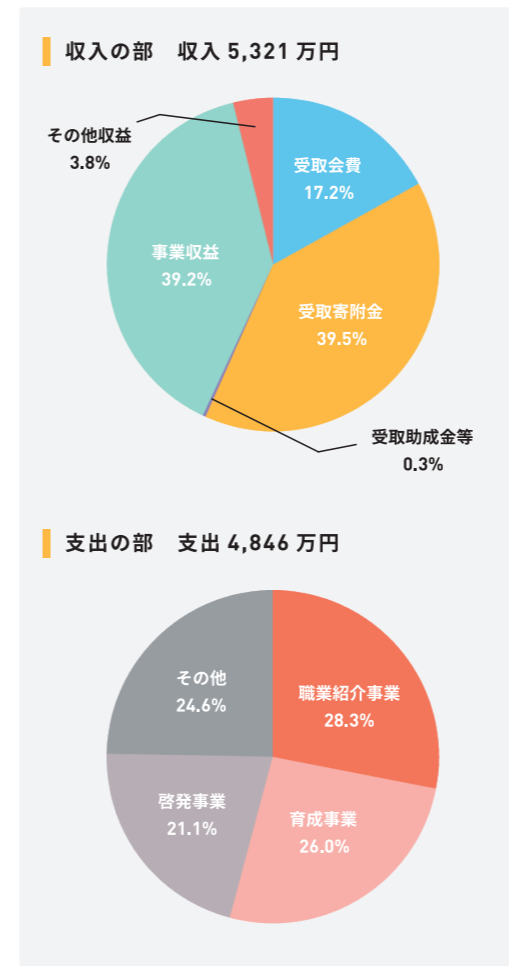
主軸事業である就労伴走事業のサービスリブランディングにかかるコンサルティング費用やサービスページのデザイン制作委託費用等が含まれています。このリブランディングプロジェクトにより、「JobCopass」が「WELgee Talents」としてリニューアルされました！

旅費交通費・会議費などを含みます。詳しくはWEBサイトよりご確認ください。

システム利用料などを含みます。詳しくはWEBサイトよりご確認ください。

昨年度に採択された助成事業での助成金未使用分の返金等が含まれています。

会計報告の詳細はWEBサイトよりご覧いただけます。右のQRコードからご確認ください。



計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

監事 東樹 敏明 (株式会社グロービス)
監事 井上 智映子 (株式会社グロービス・グロービス経営大学院教員)